名古屋大学 大学院多元数理科学研究科

Newsletter

Graduate School of Mathematics, Nagoya University

Vol. 38
2018. JUN.

新年度Newsletter第1弾の今号は、2017年度後半の多元数理学科研究科の活動総まとめと2018年度の春の活動やこれからの予定という盛りだくさんの内容でお送りします。

チャレンジ精神と自由な発想を後押し！—2018年度学生プロジェクト

学生プロジェクトは、学生の学位論文作成に向けての準備の一環で、同時に問題発見能力・企画運営能力・問題解決能力を養うことを目的としています。多元数理科学研究科は、学生自ら研究計画・運営するこの活動を全面的にサポートしています。学生自身がプロジェクトを立ち上げ、学生が主体となって運営する事により企画能力を養うことができ、2018年度は企画書と面談によって9件が採択されました。今年度の学生プロジェクトの詳細を紹介いたします。(生田裕子)

研究課題 因数分解法による逆問題の研究

代表者名 メンバー構成 古屋貴士(D1)

研究概要 この企画の目的は、因数分解法と呼ばれる手法を用いた逆問題の研究を日本で発展させることである。そのために具体的な活動として、シンガポール国立大学で行われる国際研究集会での発表や因数分解法の提唱者であるドイツのKirsch氏の下への訪問などを予定している。そのような海外での活動を通して、日本では少数派の研究対象であった逆問題を盛んにさせたいと考えている。

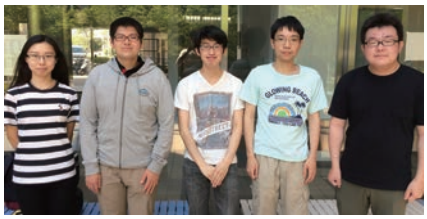
研究課題 軌道の方法とユニタリ表現の分類

代表者名 嵐晃一(D2)

メンバー構成 嵐晃一(D2)、Edi Kurniadi(D3)
磯脇勇太(D2)、森翔汰(M2)

研究概要 Lie 群のユニタリ表現論や最高ウェイト表現の一般化について研究する。研究集会「表現論と代数、解析、幾何をめぐる諸問題」と表現論シンポジウムへの参加、フランスのReims 大学での発表を行う予定です。

研究課題 Navier-Stokes方程式の適切性と解の性質

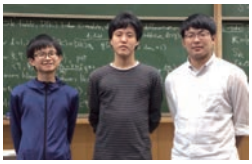


代表者名 大石健太(D1)

メンバー構成 大石健太(D1)
青山和寛(D1)
高橋知希(M2)
鄭大樹(M2)
孫琦雯(M1)

研究概要 自由境界問題を念頭に置きNavier-Stokes方程式の適切性や減衰などの解の性質について研究します。そのために各研究集会に参加・参加者と議論して視野を広め、代表者の学位論文の準備に繋げます。

研究課題 Nevanlinna theory of degenerate holomorphic curves and Nochka weights



代表者名 LIN Peiqiang (D1)

メンバー構成 LIN Peiqiang (D1)、YAMADA Hiroki (M2)
FUJII Kohji (M1)

研究概要 This project is to study Nevanlinna theory of holomorphic curves, especially degenerate holomorphic curves. In 1925, R. Nevanlinna established the value distribution theory for meromorphic functions. And later, this theory was extended into nondegenerate holomorphic curves by H. Cartan, H. and J. Weyl and L. Ahlfors. Our group wants to exploit Nochka weights to research Nevanlinna theory for degenerate holomorphic curves.

研究課題 吹田予想と大沢-竹腰型L^2拡張定理に関連する研究

代表者名 菊池翔太(D1)

メンバー構成 菊池翔太 (D1)、泉聖哉 (M2)
Liu Shuheng(M1)

研究概要 研究課題は代表者の研究テーマから取らせて頂きました。本学生プロジェクトでは、メンバー各々が複素幾何と複素解析に関する新たな問題発見と研究課題の解決を目指します。キーワードはPluripotential theoryとL^2 theoryです。

研究課題 ゼータ関数の多種多様な研究

代表者名 遠藤健太 (D1)

メンバー構成 遠藤健太 (D1)、武田渉 (D1)
齋藤耕太 (M2)

研究概要 本プロジェクトの目的は、ゼータ関数の様々な側面を研究することである。各メンバーは、学内外の研究集会に積極的に参加することで、情報収集をし、解析的な側面、代数的な側面、幾何学的な側面から、ゼータ関数を研究する。

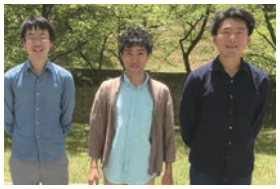
研究課題 多重ゼータ値とその応用

代表者名 梅澤瞭太(D2)

メンバー構成 梅澤瞭太(D2)、舘野荘平(D3)
早水遼(M2)、丹羽裕紀(M1)

研究概要 本プロジェクトでは多重ゼータ値の間に成り立つ関係式についての理解を深め、その応用を考えることを目的としています。第26回整数論サマースクール「多重ゼータ値」をはじめとした多くの研究集会に参加する予定です。

研究課題 ゼータ関数と数論の新しい関係性について
—若手研究の促進に向けて—



代表者名 井上翔太(D1)

メンバー構成 井上翔太(D1)、岩田英人(D1)
小林弘京(M2)

研究概要 本プロジェクトでは、ゼータ若手研究集会の運営及び、メンバーのスキルアップを目指す。ゼータ関数は多種多様であり、それらが他分野でどのように応用されるのかを研究する。その過程で、さまざまな研究者との交流を行い、メンバーの今後の研究人生に活かすことも目指す。

研究課題 定理証明支援への計算機の応用

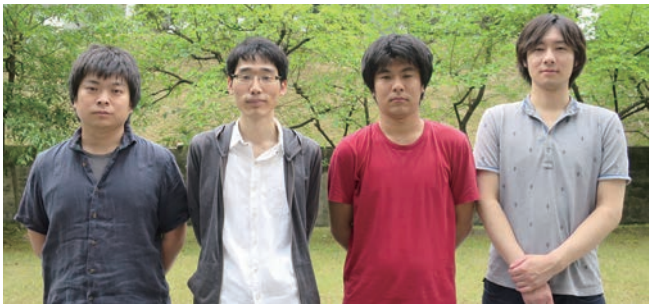
代表者名 メンバー構成 藤井大輔(D1)

研究概要 数学の定理証明という広義の「ゲーム」において、計算機がどこまで数学者に迫れるのかを研究します。合わせて、分野の最先端となりうる成果物の実装も目指します。挑戦的な1年間の数理連携プロジェクトです。親鳥の気持ちで見守っていただけたらと思います。

教務助教インタビュー！

今年度も数学演習Ⅰを担当する教務助教の4名が着任されました。そんな皆様にいくつか質問させていただきました。(西脇悠美子)

Q1 教務助教の主なお仕事はなんですか。
Q2 教務助教として、心がけていることはどんなことですか。
Q3 この仕事を通して、やりがいを感じるのはどんな時ですか。
また、難しさを感じるのはどんな時ですか。
Q4 今後の抱負を教えてください。



左から、堀内さん、木村さん、亀山さん、木下さん

亀山昌也

1）数学演習Ⅰとcafe davidでの質疑応答です。
2）僕は朝がとても弱いので寝坊しないように心がけています。
3）大学数学は抽象的かつ論理や厳密性を重視するためそれ自体が難しいのですが、更に直感的理解を伴うよう説明を工夫することに難しさとやりがいを感じています。
4）演習では学生の皆さんがもっと積極的に教員やTAに質問できるようにしたいです。また、研究を楽しむことに加えて良い結果がだせるよう精進します。

木下真也

1）学部1年生対象の数学演習を担当しています。また、カフェダヴィッドで質問を受け付けています。
2）説明が抽象的になりすぎないよう、具体的な例や図を用いて教えたいと思っています。
3）微分積分と線形代数は今後の数学の土台になるので、少しでも重要さを理解してもらえたらやりがいを感じられると思います。難しさを感じるのは、学生の皆さんが問題が解けなくて困っているとき、型にはまった解説をしてしまい、うまく手助けできないときです。
4）研究をする時間をたくさんいただいているので、今取り組んでいる研究をまとめて早く論文にしたいと思っています。

木村雄太

1）数学演習Ⅰを担当しています。演習プリント制作の意見交換や、演習時の解説などが業務です。
2）学生の皆さんが質問しやすい雰囲気を作り、少しでも演習内容の理解が進むよう心がけています。
3）学生一人ひとりが問題を解けるようになる、また理解できるようになることに一番のやりがいを感じます。そのためにどのようなアドバイスをするか、どのような解説をするかを考えることが難しいと感じます。
4）教育面では上に述べたことを更に推し進め、研究面では新鮮で有意義な結果が出せるよう努力していきたいです。

堀内遼

1）月曜1限にある数学演習Ⅰのうちの1クラスを担当しています。金曜日のカフェダヴィッドにも居ます。
2）できるだけ間違ったことを言わない様にしています。各々のペースでやってもらいたいので、急かしたり教えすぎたりしない様にも気をつけています。
3）質問してもらってうまく答えられて、何かわかってもらえた時は嬉しいです。
4）安定ホモトピー論で作られた不変量を数論幾何学に使うと重要な結果が得られることがある様です。これまでは主にホモトピー論を研究してきましたが、今後は少しずつ数論幾何学にも手を出していきたいと思っています。

STA（Super TA）

STAとは、多元数理科学研究科の独自制度で、博士後期課程の学生の皆さんのキャリアパス支援の一つです。博士後期課程の学生の方に、前期課程学生を対象とする基礎演習クラスの補助業務を行っていただくものです。

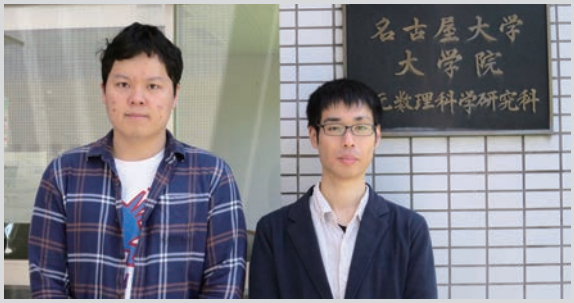
本年度、STAとして採用されたお二人に抱負を伺いました。(安井秀美)

●澤田友佑

線型代数や微積分学は数学の研究においてあらゆる場面で必要不可欠になってくると思います。基礎演習クラスで皆様がこれらを使いこなせる様になることをSTAとして全力でサポートしたいと思います。レポートの採点もやや厳しくなるかと思いますが、厳密な解答を書くことができることは理解していることの裏付けとなるので精一杯取り組んでください。半年間どうぞよろしくお願いいたします。

●青木利隆

昨年に引き続きSTAを務めます。私の主な業務内容はレポートの解説と質疑応答の2つで、現在は答案（証明）の書き方を中心に指導しています。基礎演習クラスで養う力は日々の数学研究だけでなく、修士論文の作成でも必ず役に立ちます。本年度は線形代数と微分積分の両方を担当するため、みなさんの助けとなるよう講義内外の交流を大切にしていきたいです。



澤田さん（左）と青木さん（右）

YLC特任助教紹介

平成30年度からYLC特任助教として加わった藤野です。専門は関数論で、擬等角写像論やタイヒミュラー理論に興味があります。最近では特に無限型と呼ばれる曲面（リーマン面）の退化現象について研究しています。

この研究分野は一般論が発達しておらず、具体例を幾らか計算すれば有限型曲面の場合には起こりえなかった退化現象がすぐに見つかります。そのような現象を定式的に扱えるよう一般論を整備することが私の目標です。

私は日々数学の研究を行っているわけですが、実は元々数学に特別な興味を抱いていたわけではありません。修士課程（博士前期課程）に進学したのも成り行きのようなものでした。しかし私の恩師である大沢健夫先生（現多元名誉教授）は、修士学生に対しても「一人の研究者として真剣に向き合って下さいました。（非常に）厳しいご指導の下で、「いままで分からなかったことを分かるようにすることがいかに大変なことであるか理解しましたし、それを成し遂げた時の喜びを知りました。

大沢先生に限らず、多元数理の先生方は（色々な意味で）面白い方ばかりで多くの刺激をもらえます。私も周囲に良い刺激を与えられるよう、研究を頑張っていきたいと思います。(藤野弘基)

YLC教員 藤野弘基さん

修士論文発表会

多元数理科学研究科修士課程2年生による修士論文発表会が1月31日に開催されました。
これまでの学習で身につけた知識や、研究で得た結果などを修士論文としてまとめ、予備審査を通過した学生らが、資料作成や予行練習などの準備を重ね発表を行いました。

	2015年度	2016年度	2017年度
提出数	43	44	45

〈 多元数理論文賞 〉

多元数理科学研究科では毎年優秀な修士論文に対して「多元数理論文賞」を授与しています。修士論文発表会後のパーティーにて受賞者6名が発表され、卒業祝賀会にて賞状と数理学科同窓会からの記念品が贈られました。(大野由美子)

左から、納谷研究科長、井上翔太さん、古屋さん、井上秀樹さん、榎本さん、澁谷さん

井上翔太

ゼータ関数の零点分布と数論的関数の関係、及び零点の重複度について

この度はこのような賞を頂けたことを嬉しく思います。お世話になった方、全員にこの場を借りて感謝の意を述べさせて頂きます。この賞を糧に、今後も精進したいと思います。

井上秀樹

Does Levinson's theorem count infinitely many eigenvalues? and index theorems for pseudo-differential operators on R

同じところをぐるぐる回っているつもりでも、実は透明な螺旋階段を登っていて、気づくと随分遠くに来ていた、そんな2年間でした。お世話になった大勢の方々に感謝申し上げます。

榎本悠久

Relative Auslander Correspondence via Exact Categories

伊山先生を初めお世話になった先生方、また同期の数学上のライバル兼友人たちに感謝します。これからも初心を忘れず生き生きと数学していきたいです。

小林稔周

Maximal Cohen-Macaulay modules and their syzygies over Cohen-Macaulay local rings

この2年間の成果が受賞に至ったことを嬉しく思います。親身にご指導いただいた高橋先生に感謝を申し上げます。

澁谷奎悟

Positive mass theorem for spacetimes with distributional curvature

この研究を本格的に始めたのは2年の秋でした。それでも完成させ論文賞をいただけたのは、白水教授や友人の支えがあってのものです。この場にて改めて感謝申し上げます。

古屋貴士

A modification of the factorization method for scatterers with different physical properties

アドバイザーの杉本充先生をはじめこの二年間を支えてくれた皆様、本当にありがとうございました。この受賞を励みに今後も研究に精進していきたいと思います。

博士論文

今年度は、短縮修了2名を含む10名が博士(数理学)の学位を取得しました。取得後は、多くの方が研究職に就いています。今後も学生プロジェクト等を通じて博士後期課程学生の研究支援を行ってまいります。(貝塚穣)

■ 学位取得者一覧

氏　名	主論文のタイトル
徳増　孝信	Operator splitting for dispersion-generalized Benjamin-Ono equations
堀内　　遼	Observations on the Sphere Spectrum
松岡　勇気	Measures and K-Theory on the Boundary of Trees
伊藤　康介	Analysis of finite-size effects in quantum thermodynamics of multiple conserved quantities beyond i.i.d. regime
門田　慎也	A Study on the Relations for Special Values of Some Multiple Zeta Functions
亀山　昌也	Refined Large *N* Duality and Positivity Conjecture of Refined Chern-Simons Invariants
金　　鍾明	A freeness criterion for spherical twists
木村　雄太	Tilting objects over preprojective algebras associated to Coxeter groups
宮川　貴史	Mean values and various analytic properties of multiple zeta-functions
松井　紘樹	Classification theory of subcategories around commutative algebra

M1学習内容報告会

学習内容報告会では、修士1年次の総括として、少人数クラスでの1年間の学習成果、履修した講義内容の要約、2年次での学習計画や目標をまとめ、それを発表します。報告書作成や口頭発表は、修士論文の練習の役割を持っているため、発表者は入念な事前準備が必要です。報告会では、参加した複数の教員からそれぞれの報告者に対し、2年次の修士論文に生かされるようアドバイスがなされました。(大野由美子)

卒業研究報告

数理学科の4年生は、卒業要件として卒業研究クラス(少人数のゼミ)に属し、卒業研究を履修することが義務付けられています。学年末には卒業研究クラスで学んだ内容をまとめ卒業研究報告書を作成します。2017年度は55名から提出されました。(大野由美子)

卒業研究報告書提出者数(人)	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
	54	56	62	52	55

日本学術振興会特別研究員

多元数理科学研究科では日本学術振興会特別研究員への申請を積極的にすすめています。研究科の支援体制として、申請に関する説明会を2回実施し、事務的チェック、教員および特別研究員経験者が申請書をみて内容や書き方についてアドバイスする申請書レヴューシステムを行っています。
ひとりでも多くの学生が採用される事を心から期待しています。(山田美里)

■ 学振特別研究員採用者数(過去5年)

※PDは採用内定の辞退も含む

種別／申請年度	2014	2015	2016	2017	2018	計
DC1	1	1	3	1	3	9
DC2	4	3	4	0	3	14
PD	1	2	1	2	2	8
計	6	6	8	3	8	31

学術奨励賞受賞

名古屋大学の大学院博士後期課程学生の優秀者に贈られる名古屋大学学術奨励賞に多元数理科学研究科の後期課程2年生の小見山尚さん、3年生の鈴木雄太さんが選ばれました。(貝塚穣)

左から小見山さん、鈴木さん

小見山尚

今回、賞を頂き誠に光栄です。ここまで厳格さと愛を持って指導してくれた古庄先生は勿論、お世話になった先生方にも感謝申し上げます。この受賞を糧に、驕る事なく邁進して行く所存です。

鈴木雄太

このような光栄な賞をいただいてしまったので、そろそろがんばらなければいけなくなったように感じています。
松本先生をはじめ多元数理の皆様に心より感謝申し上げます。

企業研究セミナー・ミニ同窓会

在学生へのキャリア教育支援の一環として、3月2日(金)に「企業研究セミナー・ミニ同窓会」を開催しました。企業の採用担当者や名古屋大学OB・OGを招いてお話しいただき、在学生にとって直接質問ができる貴重な機会です。

企業研究セミナーには32社の企業に参加いただき、業務概要や採用方針についての説明と、OB・OGから現在の職業や会社を選んだ理由、数学を学んだことの強み等具体的な話がありました。仕事への心構えを知り、将来をイメージする有意義な時間になったと思います。

セミナー後のミニ同窓会には27社の企業に参加いただき、在学生が個別に、より具体的に質問できるよい機会となりました。リラックスした雰囲気の中でOB・OGに仕事内容を質問したり、体験談等を聞いたりして交流を図っていました。(安井秀美)

セミナーの様子

働くこと&インターンシップセミナー・ミニ同窓会

「働くこと&インターンシップセミナー」は企業で活躍するOB・OGから、数学がどのような形で社会に役立つのか、卒業後どのように活躍できるのか等をご自身の体験をもとに生の声で聞ける数少ない機会です。

今年度は6月8日(金)に開催し、企業19社、学生36名が参加しました。

また、OBからの提案により、セミナー前に「キャリアについて考える」、セミナー最後に「教職の魅力」といったお話もいただきました。職業・会社の選択など就職活動についてや、現在の仕事の内容・様子、数学分野からの能力を活かせる仕事などのお話があり、学生は熱心に聞き入っていました。今後の就職活動の参考になったかと思います。

セミナー後のミニ同窓会では、OB・OGと学生、先生方を交え、皆さん寛いだ様子で懇親を深めていました。(安井秀美)

ミニ同窓会にて先輩方と交流

「知の探究講座」講座別発表者における優秀者の顕彰

愛知県「知の探究講座」とのタイアップ開催である夏の「数学アゴラ」秋の「公開講座」の集大成として、昨年11月18日(土)に受講生一人一人のプレゼンテーションを行う講座別発表会が開催されました。

夏の3日間連続の集中コースと質問会および総合演習日、土曜日毎に3回連続で開催された秋の講座の約3ヶ月半をかけて準備し、それぞれに工夫をこらした発表を行いました。そして、その中から選ばれた優秀者3名を3月12日(月)にお招きし、研究科長から将来への激励を込めて顕彰を行いました。

皆さん最初は緊張した面持ちでしたが、和やかな雰囲気にだんだんと緊張もほぐれ、最後は笑顔で研究科長との会話を楽しんでいる様子でした。(西脇悠美子)

優秀者の発表テーマ

岩井周平さん　岡崎高校
「天動説で惑星の公転軌道を描く」

西尾実緒奈さん　名古屋南高校
「ピックの公式とトポロジー」

古橋茉奈さん　豊田高校
「ピックの公式 ～複雑な面積を求める～」

左から、岩井周平さん、古橋茉奈さん、
西尾実緒奈さん、納谷研究科長

教員採用試験合格を目指して

教員採用試験を受験する学生を対象に「教員採用試験合格を目指して」を5月19日(土)に行いました。講師として本学理学部数理学科卒業生の川上祥子氏(愛知県立豊田西高校教諭)と勝岡里美氏(愛知県立春日井高校教諭)をお迎えしました。

今年度第1回講演では教員採用試験の概要の紹介や、筆記試験、口述試験、小論文等についてのアドバイスから始まり、グループに分かれての模擬面接も行いました。本講演は本学科の卒業生が講師であることもあり、数学教師を目指す学生にとって特に有用なものになっています。

第2回、第3回を7月、8月に予定しています。多くの方の参加をお待ちしております。(貝塚穣)

模擬面接の様子

スタディグループ
－潜在するニーズの積極的発掘を目指して－

数学を使って解決することが期待される企業からの課題提言に基づき、学生が中心となってそれに取り組み、解決を目指すことを目的とするものです。多元数理科学研究科の多様な陣容、学生プロジェクトの実施、企業との連携、同窓会との連携を総合的に活かし2016年からの準備を経て着々と活動を進めています。

昨年度から日本IBM株式会社とスローガン株式会社の協力を得て「量子コンピュータの活用」「ベンチャー企業創業者」(今年度から「数学の一般社会での活用」と改題)の2つのテーマで活発な討論が進んでいます。(小崎和子)

スタディグループ1　成果発表会　研究科長挨拶

スタディグループ2　成果発表会後　懇親会

第17回名古屋国際数学コンファレンス
“K3 Surfaces and Related Topics”

12月19日～21日の3日間にわたり、金銅誠之教授の還暦を記念しての研究集会を開催しました。招待講演者は14名、参加者は108名にのぼり、旧知の仲である研究者が国内外より集うこととなりました。

2日目にはポスターセッションの時間も設けられ、大学院生やポスドク12名の発表参加がありました。ある海外の研究者があらゆるポスターの前で足を止め、演者である若手研究者に声をかけ、質問や議論を静かにされている姿が今でも印象に残っています。(佐藤公美)

コンファレンス集合写真

「多元数理科学」だからこそのフレッシュマンセミナー

フレッシュマンセミナーは院生が先生となって学部生のゼミ指導を行う自主セミナーです。学部生は授業のインプットが多いものの、ゼミ発表というアウトプットが不足しがちです。院生が指導をしつつ、発展したトピックへ誘導していく本制度は多くの意欲的な学部生に必要とされ、長く続いてきました。

このニーズは数理科学の研究者を目指す学生に留まらないと考え、今年度からは「多様性あるフレッシュマンセミナー」をテーマに活動をしています。4月頭の新歓活動では昨年度のフレッシュマンセミナーで勉強した4人の学部生が講演を行い、70名弱の学部生・大学院生が参加して12のセミナーが結成されました。参加者の専攻は数学、物理学、化学、機械航空学、情報学と多岐に渡り、希望進路もさまざまです。また、セミナーのトピックも線形代数のような伝統的な数学から、量子力学やプログラミングまで非常に豊かなものとなっています。このフレッシュマンセミナーが「多元数理科学」の名に恥じぬ伝統となることを願って止みません。

(2018年度代表　M2 杉ノ内萌)

新歓講演

ウェブで情報発信しています。
https://sites.google.com/site/nagoyafreshseminar/home

BBQパーティー 4月27日(金)

数理学科・多元数理科学研究科の恒例行事であるBBQパーティーが、昨年度に引き続き春に開催され、屋外に設けられた会場には、多くの学生と教職員が集まりました。夕方、お肉の焼ける香りがあたりに立ち込め始めた頃から、学生が増え始め、普段交流の少ない学部生と院生が一緒にバーベキューコンロを囲み楽しむ姿や、学生と教員が笑顔で会話する様子が多く見られ、終始和気藹々とした雰囲気でした。理学部1年生にとって、学科分属説明会で聞くことのできない先輩の生の声を聞き、数理学科の新たな魅力を知る機会となっていればと思いました。

準備から片付けまでしっかりとやり遂げてくれた有志の学生の尽力により、大変盛り上がったパーティーとなりました。有志の皆様、ありがとうございました。(大野由美子)

多元数理科学棟の北側にて

バーベキューコンロを囲んで

Cafe David 営業中

オープン・オフィスアワーとして多元数理科学棟2階のフリースペースで開催されているのが、数学の交流の場、Cafe Davidです。美味しいコーヒーや紅茶を飲みながら、数学についての質問をしたり、議論をしたり、教員やTAと交流をはかる場です。

どんな雰囲気か少し覗いてみると、ボードに数式を書きながら真剣に議論している人たち、廊下でコーヒーを飲みながら話している人たち、輪になって話し込んでいる人たちなど様々な人たちが集まって、とても賑わっています。そこは堅苦しい雰囲気は一切なく、ゆったりとした時間の中で皆さん思い思いに数学を楽しんでいる様子でした。

Cafe Davidは昼休みや夕方に毎日開催しているので、お好きな時間に気軽にお越しください。たくさんの参加をお待ちしています。(西脇悠美子)

交流の場として

第15回留学生交流イベント～ランチ交流会～

前日からの雨は上がり、晴れ間が戻ってきた6月7日(木)、留学生交流イベントが開催され、11名が参加しました。昼ごはんを持参し、気軽に英語で会話を楽しむ昼食の時間を、という企画です。

沈黙が交流ラウンジを支配してしまったら、という考えは杞憂に終わり、笑い声の絶えない、賑やかなランチ交流会でした。

そして、自己紹介の際にはそれぞれの個性が発揮されました。ワールドカップの優勝国予想に始まり、フライドポテト愛、テニスの腕自慢、お薦めの小説、2020年の告知、普段なかなか聞くことができない話を耳にすることができました。このイベントが参加者のみなさまのネットワーキングのきっかけになれば幸いです。

次回の留学生交流イベントは、名古屋市科学館へ行く予定です。多くの方の参加をお待ちしています！

(佐藤公美)

昼食をとりながら歓談する参加者

談話会

多元数理科学研究科では、2018年度5月末までに2回の談話会を開催しました。いずれの講演も60名を超える方々に聴講頂き大盛況でした。講演内容は以下のとおりです。

5月16日(談話会)植田好道氏(名古屋大学大学院多元数理科学研究科・教授)
「作用素環論と確率論」

5月30日(談話会)石井亮氏(名古屋大学大学院多元数理科学研究科・教授)
「ダイマー模型とその構成」

講演後の質疑応答も活発に行われ、参加者にとって大変興味深い内容であった事が伺えました。談話会終了後は、リフレッシュスペースにてお茶と簡単なお菓子を囲んで交流しました。今年度はあと6回行う予定です。(山田美里)

談話会今後の予定	6/13(水) 15:00-16:00 田仲由喜夫(名古屋大学) 7/11(水) 15:00-17:30 大談話会 15:00-16:00 山田澄生(学習院大学) 16:30-17:30 杉山雄規(名古屋大学) 17:30- ワインパーティ

5/16 植田好道先生

5/30 石井亮先生

飛田武幸先生を偲ぶ会

飛田武幸先生(名古屋大学名誉教授、名城大学名誉教授)は、2017年12月29日に90歳でご逝去されました。心より哀悼の意を表します。

この度、「飛田武幸先生を偲ぶ会」を開催し、飛田先生とご縁のあった方々にお集り頂き、先生の思い出やエピソードを語り合いながら、故人が歩まれた足跡を振り返ることといたしました。(小崎和子)

日時： 2018年10月20日(土)　14:00-16:00
会場： レストラン花の木(名古屋大学構内)
会費： 5千円

飛田武幸先生を偲ぶ会実行委員会
(名古屋大学数理科学同窓会有志)

詳細 → http://www.math.nagoya-u.ac.jp/ja/alumni/2018/hida.html

多元数理科学研究科より

多元数理科学研究科入試情報

前期課程 第1次募集

筆記試験 7月28日(土)
合格発表 ガイダンス 29日(日)

後期課程 10月入学募集

口述試験 7月7日(土)　合格発表 10日(火)

後期課程 夏期募集

筆記試験 7月31日(火)　口述試験 合格発表 8月1日(水)

願書受付期間

前期一次、後期夏期：2018年6月22日(金)～7月5日(木)
後期10月入学：2018年6月15日(金)～6月21日(木)

詳細は下記HPをご覧ください。
https://www.math.nagoya-u.ac.jp/ja/admission/index.html

問い合わせ先　TEL.052-789-2835　FAX.052-789-5397
E-mail exam19@math.nagoya-u.ac.jp

数学アゴラ

数学に興味を持つ高校生、高校教員および社会人を対象とした公開講座である「数学アゴラ」を、今年度も8月に開催いたします。大学院多元数理科学研究科の教員が平明な言葉で数理科学について語り、その魅力を伝えます。また、今年度も高大連携の一環として、愛知県教育委員会の「知の探究講座」ともタイアップして開催されます。

日時　講義　平成30年 8月8日(水)～9日(木)
総合演習日 8月22日(水)
(「知の探究講座」受講者のための講座別発表会準備日)

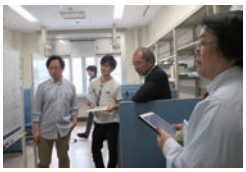
プログラム

「阿弥陀くじから始める大学数学」(植田 好道教授)
「連分数を巡って」(石井 亮教授)
申し込み方法など数学アゴラに関する詳細は
https://www.math.nagoya-u.ac.jp/ja/public/agora/agora-2018.html

院生室訪問　5月8日

多元数理科学研究科では「院生室訪問」を実施し、学生からの要望・意見を直接聞く機会を設けています。院生室毎に室長を決めていただきにそれぞれの部屋の必要備品・要望の取り纏めをお願いしており、今回も様々な意見・要望をいただきました。全ての要望を叶える事は難しいですが、少しでも快適な学習・研究環境を維持できるように学生のみなさんと協力していきたいと思っています。

院生室は、学生の皆さんで使用する公共の場です。不用なものは随時片付け、いつも快適な環境作りを目指していきましょう。(生田裕子)


院生室訪問風景

数理学科ガイダンス　3月23日
多元数理科学研究科ガイダンス　4月6日
計算機ガイダンス／新入生歓迎パーティ　4月9日

ガイダンスでは、数理学科・多元数理科学研究科での学び方、カリキュラムや履修方法など教務的な説明や窓口の利用方法、掲示板の案内を行いました。また、就職・キャリア支援、進学についての講演も行われました。この他に、計算機ガイダンスと図書利用ガイダンスが実施され、大学院の新入生はこれからの学生生活に必要不可欠なスキルの修得に向けて、演習に取り組みました。

新入生歓迎パーティーは例年どおり開催され、多くの学生・教員が参加しました。

教育研究支援室では、今後の学生生活を円滑にサポートできるよう個人情報の確認を行っています。住所・メールアドレス等に変更があった場合は、窓口までお越しください。(大野由美子)

新入生歓迎会

教育研究支援室より

父の退院と娘の転職のお祝いをかねて、熱海温泉へ。娘とは現地で昼前に集合し、その日の宿のご主人オススメの地魚フレンチレストランへGO!温泉街からほど近い店のドアを開けると、そこには昭和ノスタルジックな世界が広がっていた。

地元の漁港に水揚げされた新鮮な魚を使用したランチ。私はフライを。両親と娘はムニエルを注文。素朴な見た目からは想像できない絶妙な味わい！トマトのオニオングラタンスープもサービスながら丁寧な美味しさ。昔はこんな店あったよねーーーと、昭和生まれは浸り。しかし平成3年生まれも気に入ったようだ。わざわざ行きたい店がまた増えた。海、温泉、お宮と松以外の熱海をフレンチレストラン「クレール」でぜひ味わってみてほしい。(山田美里)

編集後記

多元数理学科研究科教育研究支援室へ来て、1年が経ちました。私がここへ来てまず驚いたことは、先生や学生が楽しそうにリフレッシュスペースでホワイトボードを利用しながら数学について熱心に議論したり、時には笑顔で語り合っている姿でした。初めはその様子に慣れませんでしたが、今では日常の風景のひとつとなりました。そして、円がつかない数字に興味がなく数学はめっきりな私ですが、今までならば気にとめなかった「数学者探偵」という帯の文言に惹かれ「眼球堂の殺人」という小説を読んでいます。こうした些細なことに、1年前との変化を感じています。(大野由美子)

名古屋大学 大学院多元数理科学研究科
〒464-8602 名古屋市千種区不老町
TEL (052) 789-2835　FAX (052) 789-5397

企画編集 教育研究支援室

これまでに発行されたNewsletterのバックナンバーが
多元数理科学研究科ホームページからPDFファイルにてダウンロードいただけます。
Newsletterバックナンバー
http://www.math.nagoya-u.ac.jp/ja/archive/newsletter/